

「ストリングシール」を開発

作業性に優れたひび割れ補修材

大成ロテック

大成ロテックは、供用性、作業性に優れた舗装のひび割れを補修するひび割れ補修材「ストリングシール」を開発した。

も状のアスファルト系舗装材「ストリングシール」を開発した。



ストリングシール溶融状況

舗装表面にひび割れが発生し、舗装内部に雨水など水が侵入することで舗装が早期に破損することから、このため、舗装

のひび割れは、できるだけ早いうちにひび割れ補修材などによって塞ぎ、雨水などの浸入を防止することが重要となる。

今回開発した「ストリングシール」は、直径5mm程度のロープ状であることを特徴とするもので、低温でも硬くなりなく、変形追従性に富む性質を有している。

ひも状で納品されたストリングシールを適当な長さに切断し、ひび割れ部に沿って充填し、ガスバーナーで加熱溶融することでひび割れ深部まで充填でき、深さに応じてこの作業を繰り返すことで、容易にひび割れを塞ぐことができる。

これにより、特に直線性の高い施工目地の開きやひび割れに対する作業性が良く、付着性や変形追従性に富む特殊アスファルトを使用しているため、積雪寒冷地や寒冷期

などの低温時に舗装が収縮しひび割れ幅が広がった場合でもその動きに追従し、従来の補修材と比較して隙間が空きにくく長期にわたり水の浸入を防ぐことが期待できる。

さらに、ひび割れ部への充填時に周辺舗装へのはみ出しや盛り上がりが生じにくいため、夏場には走行する車両のタイヤへの付着や積雪時の除雪機による補修材の破損が防止できるとともに、補修後の美観にも優れている。

すでに、付着性や変形追従性などの性能については、材料の開発段階で積雪寒冷地における試験ヤードでの試験施工で実証済みで、昨秋に積雪寒冷地の一般国道での試験施工を実施し、作業性や充填後の仕上がり状況などの確認も行った。今後は、追跡調査を継続するとともに、積雪寒冷地を中心に全国展開を図っていく予定としている。